

第14回日本緩和医療薬学会年会開催報告

Meeting report of the 14th Annual Meeting of Japanese Society for Pharmaceutical Palliative Care and Sciences

会長 千堂年昭 (岡山大学病院 薬剤部)

Toshiaki Sendo (Department of Pharmacy, Okayama University Hospital)

第14回日本緩和医療薬学会年会を令和3年5月13日(木)～5月16日(日)の4日間の会期でWeb上でのライブ配信, 5月13日(木)～5月24日(月)はオンデマンド配信として開催させていただきました。当初は令和2年5月に開催する予定ではありましたが、ご存じのようにコロナ感染症が猛威をふるい、開催することができず1年間の延期を余儀なくされました。当学会の年会は、緩和医療に携わる病院薬剤師、保険薬局薬剤師、薬学研究者が垣根を越えて一堂に会し、「患者、家族のために」を合言葉に、日常臨床を振り返る場、更なる知識の収集の場、全国の同じ思いを持つ薬剤師との交流の場として、毎年3,000人以上の参加者が集う会に発展して参りました。延期した段階では1年後はきっと、この岡山に全国の先生方をお迎えし、盛大に開催できることを信じておりましたがそれも叶わず、苦渋の決断で完全Web開催となりました。そのため、年会の一つの大きな目玉である懇親会も、後楽園

での落ち着いた雰囲気での開催を予定しておりましたが、泣く泣く諦めることとなりました。しかし、私たちも嘆いてばかりはいられません。このピンチをチャンスととらえ、Web形式でも会員の先生方に満足していただける内容とすべく、またWebだからこそできることを模索しながら準備を進めて参りました。本年会のテーマを「あなたらしさに向き合う、緩和医療薬学の可能性」とさせていただき、テーマに則した多くの興味深いシンポジウムを企画していただきました。ワークショップでは多くの先生方のご協力の下、新たな取り組みとしてWebを用いた開催に挑戦しました。特別講演1では臨床医の立場から岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 特任教授の松岡順治先生より、「緩和医療のありかたと薬剤師の役割」と題してご講演を賜りました。また特別講演2では九州大学理事・副学長でいらっしゃいます井上和秀先生に基礎研究者の立場から「神経障害性疼痛とミクログリアP2X4受容体」という演題名でご講演賜りました。両講演ともお二人の先生方のご厚意でオンデマンド期間中何度も視聴することが可能といただきました。またシンポジウムでは、座長やシンポジストの先生のご尽力の下、こちらも事前にシンポジウム内容を収録し、期間中オンデマンド配信をさせていただきました(写真1)。顔と顔を突き合わせたface-to-faceのコミュニケーションは取ることはできませんでしたが、普段業務の都合やご家庭の事情で参加しにくかった先生方も参加いただき、合計で2,073名の先生方に参加、視聴をいただきました。

予定されていた12日間のオンデマンド配信期間中、魅力あふれるプログラムを先生方の都合に合わせて繰り返しご覧いただけましたものと思います。座長・演者・一般演題発表の先生方には、今までと異なるWeb開催へのご協力をいただき、心より感謝申し上げます。素晴らしい講演、シンポジウムが目白押しであり、最終的にはオンデマンド配信期間も、会員の先生方の強





写真1 シンポジウムはオンラインで事前収録し、オンデマンドで視聴いただく形式としました

い要望により、1週間延長させていただき、私どもといたしましては大成功のうちに会を閉会することができたと自負しております。

お会いしての交流は深めることは叶いませんでしたが、会場に入りきれずに聴講を諦めたり、聞き取れなかったりするようなことはなく、先生方ご自身のタイミングで、ゆったりとご視聴いただけたものと思います。

今回の年会は、年会長が各会場を回ったり、懇親会での挨拶をさせていただいたりすることはありませんでした。教室スタッフ総出での前日からの会場設営もなく、平日開催ということもあり、通常の業務を行うこともできました。いつもは昼食を摂りながらの共催

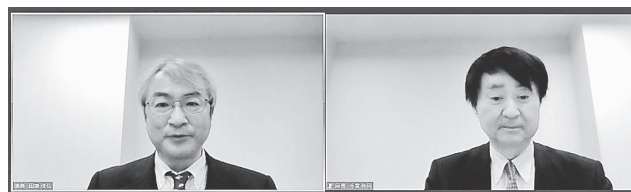


写真2 共催セミナーも時間を工夫し、Web配信となりました

セミナー（ランチョンセミナー）もお昼時ではなく、会員の先生方が聞きやすい夕方の時刻を設定し、Web配信により行いました（写真2）。

コロナはもうしばらく落ち着くまでには時間がかかりそうです。しかしいずれ、私たち人類も上手な付き合い方を見出すものと思いますが、今後は学術集会の開催形式も完全に元に戻ることはないでしょう。対面とWebの良いところをハイブリッドさせた形になっていくものと思われます。「Webになってしまった」ではなく、「Webだからこそできる形を作っていく」、その創世記に携われたことを幸せに感じながら、学会開催報告とさせていただきます。

（岡山大学病院 薬剤部 鍛治園誠 記）

令和3年5月25日受稿
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1
電話：086-235-6773 Fax：086-235-7974
E-mail: kajizo-m@cc.okayama-u.ac.jp